

環状剥皮処理によるキウイフルーツ「 Hayward 」の品質向上

〔要約〕 10月上～中旬にキウイフルーツの主幹部に幅10mm程度の環状剥皮を実施すると、果実の追熟後の糖度が1.5～2度高くなる。また、結果枝中の澱粉含量が増加し次年度の着花が多くなる。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成6、7年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

キウイフルーツは価格の低迷から全国的に産地の縮小が続いているが、価格低迷のひとつの要因として年による、あるいは産地による品質の変動が非常に大きいことがあげられる。このようなことから大果で味の良い果実を生産する手段として、秋季の環状剥皮処理が品質に及ぼす影響について検討した。

〔成果の内容・特徴〕

- ①10月上～中旬に主幹部に幅10mm程度の環状剥皮を実施すると、果実の肥大は変わらないが、追熟後の果実の糖度が1.5～2度高くなる。
- ②環状剥皮処理によって冬季の結果母枝中の澱粉含量が増加し、次年度の着花が多くなる。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①樹勢が落ちている樹に環状剥皮を行うと、樹勢低下を助長するので注意する。

[具体的データ]

表 1 環状剥皮処理と果実肥大, 品質

年度	処 理	果実重 (g)	収 穫 直 後			追熟後
			果肉硬度 (kg/cm ²)	糖度	酸 含 量 (g/100mℓ)	糖 度
1994	10月 4日	100.3a [*]	3.59a	10.2a	3.02a	19.0a
	10月26日	103.3a	3.88a	9.0b	3.05a	17.5b
	無 処 理	104.7a	3.71a	10.0a	2.86b	17.4b
1995	10月11日	113.0a	2.69b	12.8a	2.30a	16.6a
	10月25日	111.7a	2.62b	11.9b	2.01b	15.1b
	11月 7日	102.4b	2.85ab	11.2b	2.10b	15.4b
	無 処 理	111.4a	2.97a	11.3b	2.40a	14.6c

^{*} 同一年の縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

表 2 環状剥皮処理と結果母枝中の澱粉含量
及び次年度の着花数

年度	処 理	澱粉含量 (dw・%)	着花数 [*]
1994	10月 4日	2.34	
	10月26日	2.32	
	無 処 理	1.70	
1995	10月11日	2.68	3.96
	10月25日	2.57	3.98
	11月 7日	2.19	3.76
	無 処 理	1.64	3.01

^{*} 結果枝 1 本当たり

[その他]

研究課題名：キウイフルーツの品質関連要因の解明と向上法

予算区分：県単

研究期間：平成7年度（平成4年～）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：平成6，7年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：連年にわたって環状剥皮を行った場合の樹体への影響